

リレーメッセージ



新憲法制定を心の底から喜んだときから60年 吉田昭次（勝呂）

参院選で、自民党が大敗し、民主党が躍進した。7月30日の朝日新聞見出しで、「自民歴史的な大敗・首相は続投を表明・民主躍進、初の第1党・民主政権狙い攻勢・野党に国会主導権、与党採決強行不可能に・首相改憲に固執、指導力に有権者は疑問」と報じている。私は、今度の参院選を憲法九条を変えて、戦争のできる国にするのが、国民の手で歯止めをかけることができるのか、日本の今後を二分するものと考えて、不十分ながら闘ってきたつもりです。

プスツという音のグラマンの機銃射撃やB29の爆撃などの体験で、死んでいてもおかしくなかった戦争を経て、戦後食料をはじめ物資が極端に不足していながらも、平和と自由の開放感の中で、新憲法制定を心の底から喜んだときから60年。私たちを守ってくれた現憲法をやすやすと変えられてたまるものかという思い、この国を戦争のできる国に変えて、大切な子や孫たちを戦地に送ってたまるものかという思い、九条は戦争で侵略した中国はじめ、アジアの国々に対する謝罪と不戦の誓いであるという思いで、九条の会にも参加させていただきました。

自民党が大敗しても、護憲の党は少数です。

護憲、九条の闘いはこれからが正念場だと思います。共にがんばりましょう。



私の戦中・戦後

利根川俊文（勝呂）

昭和11年（1936年）2月26日の早朝母は産気づきました。戸外は大雪、父は雪を掻き分け産婆さんを迎えに行き、お前は無事生れてきたと、今は亡き母から幾度となく聞かされました。この日の東京では同じ雪を踏んで、青年将校と兵士1,400人有余の部隊が、政府首脳を襲撃し高橋大蔵大臣など8名を射殺した軍事クーデター、所謂、2,26事件が勃発したのです。翌、12年には慮溝橋事件を契機に日中戦争が始まり、16年には太平洋戦争へと戦火が拡大した中で、17年に小学校へ入学しました。戦争末期になるとあらゆる物資が不足し、長靴もなく雪合戦は裸足、精神統一すれば寒くないといわれ足が紫色になったり、川では全裸で泳ぎ、労働力として厳冬の畑で麦踏作業に狩り出されたりと厳しかった日々が思い出されます。

小学4年生のとき戦争は終わり、学校では先生から教科書に墨を塗るようにと指示され、わら半紙の教科書、6,3制移行による教室不足で午前・午後の2部授業。食べ物が無く常に飢えており、食糧の配給は、甘くないサツマイモ、大豆の油粕などで、口に入るものらなんでも食べた時代でもありました。

田舎町に生れた少年が歩んできたこれ等の事からも、戦争は絶対にしない、戦争の準備の芽も摘み取る、憲法9条を守る闘いをしていきたいものです。

「おがわ町九条の会」は皆様の会費（一口200円）とカンパで運営されています。

「聞いて!聞いて!私の声」……「おがわ町九条の会」では町のみなさんのいろいろな声を特集してゆきます。「九条へのおもい」「平和への願い」「現状への不平・不満」などなど、みんなに聞いてもらいたいことを、どうか事務局までお届けください(匿名でも結構です)。

私たちにとって、8月は特別の月です。原爆投下、そして終戦。今回戦争(終戦)を体験された3人の方のご協力をいただき、貴重な体験等をお寄せいただきました。ありがとうございました。

太平洋戦争中の小さくて、大きな思い出

清水喜作（みどりが丘）

戦争中、私は小学生で、日曜日には、キリスト教会の日曜学校に通っていました。1943年頃、いつものように、日曜学校に行くと、先生に「今日からここで、日曜学校ができなくなったから、他の教会に行きなさい。」と告げられたことを鮮明に記憶しています。思い出は、これだけのことです。しかし、当時この教会の属する教派は、「昭和の宗教弾圧」の標的になっていて、まず幹部・有力牧師が、全国一斉に検挙され、翌年には、この教派全教会の解散と、全牧師の資格剥奪に至りました。私のあの日の小さな経験は、この教会解散の結果だったのです。

それ以前に亡くなった私の父も、この教派に属する牧師でしたから、子供心にも、他人ごととは思えず、母や周りの大人達のひそひそ話を、教会が大変なことになっていると思いながら聞いていました。戦後になって、検挙された人たちの過酷な取り調べや拷問の状況、そのなかで、殉教を遂げた何人かの人たちの存在などが、明らかにされています。

この教派の弾圧の理由は、反戦的な主張したからではなく、キリスト教の神と、現人神である天皇とは、どちらが偉いのかといった類の、宗教上の教義に対する言いがかり的な論難が主だったようです。直接の目的は、この教派を見せしめに、キリスト教、さらには全宗教界に対して脅しをかけることにあったのでしょうか。国家の存亡をかけた戦争になれば、国内の一切の反論や批判は許されず、その危険性があれば芽の内に摘んでしまう、こうした論拠の下では、思想信条などの内心の自由すら許されないこととなります。戦争の論理に必然的に内在する、この理不尽な非人間性と恐ろしさを広く再認識するために、少し特異な事例ですが、紹介させていただきました。

キリトリ

おがわ町九条の会 入会申込書

氏名 _____

住所 _____

電話 _____

Fax _____

九条の会

No.19 2007. 8.9 **おがわ町九条の会**

だより

〒355-0315 小川町みどりが丘 5-13-3(西田一雄気付け)
T/F 72-4445 Eメール kyujyouogawa@hotmail.co.jp

8月の「おさし」

おがわ町九条の会は、毎月9日を憲法九条にちなんで駅頭ビラまきを実施しています。

8月9日は、広島に続いて長崎に原子爆弾が投下された日。二つの市が壊滅し、いまなお後遺症に苦しむ多数の人がいるという悲惨さ。私たちに忘れて忘れることの出来ない日です。改めて日本と世界の恒久的な平和の実現を願わずにはいられません。

参議院選挙が終わりました。選挙の結果「改憲」発議はできなくなったという見方は出来るのでしょうか。「戦争が出来る普通の国」を目指す潮流が根強くあります。

安倍首相が、私的諮問機関を設け「解釈改憲で9条の実質的改憲」議論を始めてきていることも注視する必要があります。

「戦争はいや」「孫子の代まで平和を」「そのためにも九条改憲ノ」を掲げる九条の会の役割は大きくなっています。

皆さん。九条の会で力を合わせましょう。

第3回

おがわ町九条の会総会のご案内

日時 2007年9月1日(土) 午後1時30分から

会場 パトリアおがわふれあいホール

内容 第一部 総会 事業報告 決算報告 監査報告 次年度事業計画 予算案

第二部 記念公演(3時から)

合唱構成ミュージカル「はしれぞうれっしゃ」

「おがわ町九条の会」も結成から2周年をむかえました。この間、「憲法9条を守る」という一点で、大きく運動を広げてまいりました。おかげさまで会員数も400名を越え、たくさんの町民の皆様にご支持をいただくようになりました。ここに上記により定期総会を開きます。アクションとして今回、「平和のための戦争展」で好評を博した、ミュージカル「はしれぞうれっしゃ」を、パトリアおがわのふれあいホール(町民コンサートと同会場)でお贈りいたします。会員の皆様に限らず、たくさんの皆様のご来場をお待ちしています。(第二部「はしれぞうれっしゃ」は入場は無料ですが入場整理券が必要です)

「おがわ町九条の会」は「憲法九条を守りたい」と思う方ならどなたでも入会できます。「おがわ町九条の会」は皆様の会費(一口200円)とカンパで運営されています。ご連絡をお待ちしています。(0493-72-4445 西田)

おがわ町九条の会第3回総会・記念公演

思い出してください!
この国がようやく平和になった あの時を
想像してください!
平和になった よろこびを
聴いてください!
子どもとおとなが、100余人で
歌う
お♪は♪な♪し
を



合唱構成ミュージカル

はしれぞうれっしゃ



9月1日(土)3時パトリアおがわ

この「はしれぞうれっしゃ」は、第2次世界大戦中に名古屋の東山動物園で起こった出来事をもとに作られています。戦争が激しくなり、動物たちが次々と殺されました。戦争が終わったとき、全国の動物園からはぞうが消え去り、東山動物園のマカニーとエルドの2頭だけが生き残ったのです。東山動物園の北王園長さんは必死でぞう達を守りぬいたのです。

そして、1949年、本物のぞうがみたいという子どもたちの声が全国からわき起こりました。子どもたちの夢と希望を実現させようと名古屋市や国鉄、交通公社が相談し、「ゾウ列車」を走らせることになりました。この年の6月18日、彦根からの列車を第一号に、日本全国から子どもたちを乗せた「ゾウ列車」が名古屋へ向けて走り続けました。子ども達の夢と、平和への願いや喜びをのせて「ぞうれっしゃ」は「今」でも全国各地を走り続けています。さあ、一緒に、出発、進行!